



さとやま 2022年 秋号 (通巻160号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552 fax 029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600
<http://ushiku-satoyama.org/>
■編集 木谷昌史

さとやま ～秋号～ No.160

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (色づくクス)
2. お知らせ
- 3-4 プロジェクト活動報告
5. 秋の野山で見られた動植物
6. 裏表紙 (ヤマノイモの実)

事務局からのお知らせ

結束町みどりの保全区 「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森に隣接する牛久市結束町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。

8月から11月の活動については、今年は珍しく台風の影響を受けることはありませんでした。また作業日は全て好天に恵まれ、林床の草刈りを中心に作業を進めることができました。

12～2月は下記の通り4回の実施を予定しております。落ち葉集めを中心とした内容で、汗をかきたいと思っております。雑木林の景観維持へのご協力を引き続き宜しくお願いいたします。

活動日：12月13日（火）、1月24日（火）、2月14日（火）、28日（火）

時間：9時～11時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。

秋の野山で見られた動植物



ウマノスズクサの葉をかじる
ジャコウアゲハ



穂をつけるススキ



白い花を咲かせるヒヨドリバナ



綿毛の準備をはじめるノハラアザミ



卵で冬を越すオオカマキリ



淡い紫色が可憐なカントウヨメナ



秋の七草の一つのフジバカマ



実が熟すウド



ひつつく種をつけるフジカンゾウ



赤い実が際立つカラスウリ



地面に擬態するクルマバタモドキ



枯葉の色に紛れるコカマキリ

去る9月17日（土）、標記ガイド活動を「城中地域の歴史と自然を訪ねてみよう」というテーマで実施しました。少し暑い日でしたが、晴れて問題なく実施することができました。

参加者は33名、内、応募参加者20名、プロジェクトメンバー10名、都市計画課2名、それと今回は地域の歴史の解説者としてうしく里山の会監事（前理事長）の坂弘毅さんをお願いしました。当プロジェクトのガイド活動は、前身の巨木リサーチプロジェクト時代の平成21年度からこれまで13年間、途中数年は実施できない年もありましたが、年2回程毎年実施してきました。

運営は牛久市との協働事業ということで両者で分担して実施してきました。市の担当部署、都市計画課には参加者募集の広報紙掲載、移動用バスの手配、バス乗車者名簿の確定、配布資料のプリント・帳合い作業を。又、実施日当日は要所要所での人数確認を。当プロジェクトはガイドの企画、配布資料の原稿づくり、当日の案内・解説を担当してきました。又、牛久自然観察の森のスタッフの方々には参加申込み者の受付窓口になっていただいています。

今回案内した場所は当プロジェクトが令和元年度から植物調査を続けている城中地域。コースは得月院前駐車場をスタートに得月院境内～城中貝塚～牛久城址～かっぱの小径～住井すゑ文学館～雲魚亭～かっぱ松～陣屋跡～河童の碑～得月院前駐車場を終点に歩きました。集合、解散場所である市保健センター前と現場間は市のバスで移動しました。歩きながらの周囲の樹木や事物に関する参加者同士の会話の他、得月院境内、牛久城址、河童の小径入口、カッパ松、陣屋跡、河童の碑等の要所要所では集合して説明、解説をしましたが、移動時の列が乱れ、長くなってしまった点、集まって話を聞くといった場合、一部の人のみに

なってしまうくらいがあった点等、反省すべき事がありました。今回はコロナ禍でのガイド活動ということで密集をさけるという観点では良かったのですが反省点です。又、当初計画した解説、案内が十分に実施できたか、用意した拡声器を使いこなせなかった点も含め心残りの所もあります。

参加された皆様には、今回見分した事柄、景観等を手掛かりに配布された資料を活用して頂き城中地域、住んでいる地元、牛久市への理解、愛着をさらに深めていただければと願っています。



得月院前駐車場での開会の挨拶風景



牛久城址杉林内での生育植物の解説風景

10月10日（月・祝）、23日（日）、29日（土）「森のワークショップ」～コクワガタ飼育講座～を開催しました。

対象は5歳～小学生、イベントの内容は、自然の中でコクワガタの生息する生態系を知り、各家庭での長期飼育を通じて生態を学んでいきます。朽木の中で育つという特殊な生態故に、カブトムシよりも馴染みが少ないようです。飼育をするきっかけが少ないこともあってイベントの後に感謝の声をいただくこともあります。イベントでは実際に朽木を割りながら中からクワガタの幼虫を探します。なかなか見つからず幼虫を発見した時や予想よりも大きな幼虫が見つかった時には喜びの歓声が上がること。

現在の企画内容のイベントとしては2017年に開催し今年で6年目を迎えます。今年度の参加者数は27組72名、毎年たくさんの応募に答えられるように、また生態系への影響を考慮してコクワガタの繁殖にも取り組んできました。クワガタのことは良く知っていても、コクワガタの幼虫が住んでいる場所や枯れた木の分解を早めていることは意外と知られていないようで、子供達には新たな発見があるようです。

樹液の出やすいコナラやクスギの雑木林の中で豊かな自然体験ができるよう来年に向けて引き続き準備を進めていきたいと思っています。



コナラの伐採をおこなった場所でイベントを開催

青梅、それは実梅のことです。紅梅、白梅、濃淡があり観察の森でも園路を歩いていただけでは気づかない紅梅が5本ほどあります。キツイ紅とちょうど良い紅が（私にとって）。いずれも園路からはずれて杉林との境に、杉や桜の木に覆われ日当たり悪く痩せて立っています。この梅林は老木が多く世代交代の時期でもあり、実生より育てた幼木が幾本かあります。いずれも白梅です。

紅梅を増やしたいと数年前より実が着くのを待っているのですが、一度だけ見つけ膨らんでくるのを待っていたのですが見失ってしまいました。このことを吾隊の女史に相談したら、時期が早くまだ虫が飛んでいないですね、と言われ紅梅が咲く時期は早くまだ寒い。この時私には”♪赤青黄色の”とメロディーが聞こえお尻の黄色いハチがうかんできました、そうだ私が頭の白いハチになろう。早速次回にモフモフの耳かき棒がないので綿棒を数本持って梅林へ。以前杉林の遺伝子の話を讀んだ記憶があり、同じ林内で交配しているのは少なく、多くが他の杉林の遺伝子との交配ですとの調査結果。すると他の梅林の紅梅はどこに、わたしにはそれほどの飛翔力はすでに失われ、脚立を抱えて10mほどの移動が精いっぱい。梅の花びらみると真ん中に一本突起しているのが雌しべ、周りの雄しべを雌しべに触らぬよう綿棒でこすって、脚立を抱えて移動、今度は雄しべに触れぬよう雌しべにチョン々とあっちの木こっちの木と幾度か繰り返した。

5月になっても実が見当たらない、何が原因？？？。今年は梅の実自体が非常に少なかった。こうなれば挿し木でと小枝を切り挿し木にしたが、日陰で水気を絶やさずとあり、一週間に一度見に行けるかでは管理ができずに失敗のようです。

今は紅梅の実をいただき畑に埋めているのが芽を出すのを待っています。



梅の幼木